

(3) 食と地域の「絆」づくり

(都市と農村の交流等を通じた「食と地域の「絆」づくり」が重要)

農林水産業は、私たちの食や生活を支えるかけがえのないものです。しかしながら、基盤となる農山漁村の活力が低下している地域があるのも現実です。このようななか、一部地域においては、農産物や文化・自然等の地域資源を活かし、農業者、消費者、事業者等地域内外の多様な関係者の結び付き（絆）による都市と農村の交流等を通じた地域活性化の取組が進められています。

農林水産省では、「食と地域の「絆」づくり」による地域活性化の取組を公募し、その中から優良な取組を選定しました。このような「絆」を大切にしたい取組を全国各地で進め、農業・農村の活性化、都市住民の農業・農村に対する理解や関心の向上につなげていくことが重要です。

事例 「食と地域の「絆」づくり」の取組

(1) 地域住民、農業者、地域協議会、産官民協働組織主体の取組

<p><small>かみしほろちよう</small> 北海道 上士幌町</p> <p>上士幌町交流と居住を促進する会では、産官民協働組織による移住・二地域居住の推進、廃校を利用した林間学校、地元高校と協働での新商品開発、エゾシカ狩猟見学ツアー、「お試し暮らし」用モデル住宅の管理等に取り組んでいます。</p>		
<p><small>うらほろちよう</small> 北海道 浦幌町</p> <p>うらほろスタイル推進地域協議会では、子どもたちが自分たちの住む地域に自信と誇りをもてるように、農林漁家での生活体験や、町づくりの企画提案を内容とする授業を小・中学校で実施しています。子どもたちの提案は大人たちの協力を得て実現化が進んでいます。</p>		
<p><small>ごのへまち</small> 青森県 五戸町</p> <p>カマラードの家では、女性たちによる地元農産物の加工販売を行い、にんにくボール、紅玉りんごのアップルパイ、大福等の開発や、梅やアピオス（マメ科の植物）等の商品化に取り組んでいます。積極的な販路拡大で所得の増加を実現しています。</p>		
<p><small>くじし</small> 岩手県 久慈市</p> <p>短角牛の里と都市を結ぶ集い実行委員会では、消費者を放牧地に招き風景や地域独特の風土等を感じてもらおう交流会を開催し、短角牛と親しむ機会を提供しています。100%国産飼料による牛肉生産、耕作放棄地での飼料作物の作付けで低コスト化を図っています。</p>		
<p><small>かわにしまち</small> 山形県 川西町</p> <p>東沢地区協働のまちづくり推進会議では、平成3（1991）年、地域の全戸で山村留学を始め、平成18（2006）年に交流による地域づくりを本格化しました。「食と自然とあたたかさ」をモットーにした特産品販売や体験イベント等を通じ、都市住民との交流の輪を広げています。</p>		

群馬県前橋市

緑風街倶楽部では、地域の米、水、酵母等を活用した地酒を製造しています。米や酒づくりの勉強会、料理教室等を通じた地域間交流や、地元飲食店の協力による「酒対決」等のイベントにより、市全体の活性化にも貢献しています。



埼玉県川越市

川越style倶楽部は、地元の1次、2次、3次産業者を結び付け、異業種連携を進めるために発足されました。地元と東京に飲食店「黒豚劇場」を出店し、埼玉県産の食材を使った料理を提供しています。また地域の食文化を世界にも発信しています。



三重県志摩市

志摩いそぶえ会では、海女や漁師等の協力のもと、志摩の郷土料理のレシピ集「きらりレシピ」を作成しました。また真珠貝の貝柱を使った「真珠てこね寿司」や、アオサを利用した創作料理を開発し地域経済の活性化を図っています。



広島県安芸高田市

住民自治組織川根振興協議会の取組については第2節(3)集落機能の低下を補完する取組(集落機能を維持するための住民主体となった取組)(331ページ)を参照



高知県高知市

鏡村直販店組合には、地域農家の8割が参加しており、農業の担い手の育成、高齢農業者の活躍の場として地域農業の振興に貢献しています。消費者のニーズに合わせた商品販売や料理教室等の開催は都市住民との交流に一役買っています。



宮崎県五ヶ瀬町

夕日の里づくり推進会議では、景観を活かした都市住民との交流による地域づくりを行っています。都市住民を対象にしたツアー、イベントの開催、外国からの教育旅行の受入れや、地域の特産品を販売する「夕日の里物産館」の運営等に取り組んでいます。



沖縄県久米島町





久米島ホテルの会では、カンジダム湿地の保全を通じ島の活性化を図るため、多様な生物と共生する自然環境や里山環境の再生に取り組んでいます。島の生活や生物調査、サンゴマップづくり等幅広い活動を展開しています。



(2) 農協、漁協、農事組合法人主体の取組

<p>東京都千代田区 <small>ちよだく</small></p> <p>全国漁業協同組合連合会では、カキ等の養殖貝殻を活用した人工魚礁「JF シェルナース」の普及を進めています。人工魚礁は多くの漁村で廃棄される養殖貝殻の処理費の軽減と、漁業者が製作に参加できるため、漁業閑散期の雇用機会の創出にもつながっています。</p>	 
<p>福井県永平寺町 <small>えいへいじちよう</small></p> <p>農事組合法人吉野ホタルの里ファームでは、ホタルが棲める環境づくり、れんげを緑肥として使用した無農薬・無化学肥料の「れんげ米」の生産に取り組んでいます。地域の担い手づくりや、集落機能の維持に向け、食育活動等住民相互がふれあう機会づくりも行っています。</p>	 
<p>愛知県美浜町 <small>みはまちょう</small></p> <p>農事組合法人鵜の味では、鵜の繁殖地を守り、自然、特産品、伝承料理を活かすことで多様な交流メニューを提供しています。集落代表の営業会議を毎月実施するとともに、研修会等へ積極的に参加し組織力を強化しています。レストラン経営にも取り組んでいます。</p>	 
<p>鳥取県倉吉市 <small>くらよし</small></p> <p>鳥取中央農業協同組合では、子どもたちが農業の大切さを知り、郷土愛や豊かな心をもって育つことを願い農業体験学習「あぐりキッズスクール」を開校しました。地元の高中生にも指導補助員として協力を仰ぎ活動の輪を拡大しています。</p>	 

(3) 大学、特定非営利活動法人、財団法人主体の取組

<p>新潟県長岡市 <small>ながおかし</small></p> <p>東京家政大学白藤プロジェクトでは、女子大生による田植、稲刈り、酒仕込み、商品開発から販売に加えて、東京都内の小学校での食育活動等、農業体験にとどまらない多彩な活動を展開し、栄養士や食育の道を目指す学生の実習の場ともなっています。</p>	 
<p>山梨県北杜市 <small>ほくとし</small></p> <p>特定非営利活動法人「えがおつなげて」では、農村ボランティア、企業と連携した遊休農地の活用、グリーン・ツーリズム、食育、人材育成を柱とする活動を展開しています。農業体験のイベント化等、都市農村交流を通じた地域の活性化に取り組んでいます。</p>	 

長野県上田市

長野大学環境ツーリズム学部古田ゼミナールでは、絶滅の危機に瀕していた、地方品種の山口大根の保全を行っています。旅館組合や食育関係NPOと連携した料理コンテストは地域ぐるみの活動に発展しました。レシピをまとめた「信州うえだ地大根レシピ100選」も作成しています。



大阪府泉佐野市

(財)泉佐野市公園緑化協会では、農林水産業への理解の促進や都市農村交流、自給率向上のためマルシェを開催しています。また牛に野草を食べさせることで生産管理コストを下げ、環境保全と両立する資源循環ビジネスにも挑戦しています。



(4) 企業主体の取組

山形県村山市

国立ファーム(株)ガールズ農場では、女子大生を対象に、同じ20歳代女性という近い立場での対話に重点を置いた農業体験を実施し、参加者の農業に対するイメージや意識の変化につながっています。他にも、女性の感性を活かし、規格外野菜を使用した菓子製造等も始めています。



長野県長野市

(有)たんぼぼでは、女性農業者による地元農産物を使った加工販売、遠隔地への「ふるさと宅配便」、高齢者への週2回の弁当配達に取り組んでいます。また、その影響を受けメンバーの配偶者も遊休農地活用のワイン生産を始めています。



熊本県人吉市

(株)くまもと創健では、農薬、化学肥料、殺虫剤を使用していない肉厚で大きいきくらげを生産しています。地元イベントではその調理方法の普及のほか、全国的にも珍しい収穫体験等も実施しています。地元の高齢者や退職者も生産にかかわっています。



資料：農林水産省作成